

日本地衣学会 No.168

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次

会務報告	655
日本地衣学会第21回大会報告／川又 明德	655
日本地衣学会第21回大会に参加して／森田 歩	657
日本地衣学会第21回大会に参加して／野手 友貴	658
会員通信	659
気をつけよう！春先の岩場にて／田中 慶太	659

会務報告 *Reports of the JSL Activities*

日本地衣学会第21回大会報告

Report of the JSL 21st Annual Meeting (Online, 10 - 11 Dec. 2022) / by KAWAMATA Akinori

>>>>>>> 川又 明德：第21回大会実行委員長、
愛媛県総合科学博物館

日本地衣学会第21回大会が、2022年12月10日および11日の2日間、オンライン形式で開催されました。本来9月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）第7波の影響を受け、メールによる評議員会を開催し協議した結果、オンラインとする決断に至りました。今回のオンライン開催にはZoomによるライブ方式が導入され講演数はシンポジウム2件、一般講演11件、参加登録者は正会員20名、学生会員6名、非会員2名、計28名でした（実際の参加者は正会員19名、学生会員6名、非会員2名、計27名でした）。シンポジウムでは「地衣類の共生パートナー」と題したテーマのもと、京都大学の升

本宙先生からは「地衣共生藻について」、総合研究大学院大学の河野美恵子先生からは「共生バクテリアから明らかになったイオウゴケの適応戦略」の興味深いお話をお聴きすることができました。一般講演の11件中6件は学生会員による発表で、昨年に引き続き半数を学生会員が占め、若い世代が地衣類の研究に関わっている事がとても嬉しく感じました。その中、東京理科大学大学院先進工学研究科の平野敦春さん、秋田県立大学大学院生物資源科学研究科の野手友貴さんと松淵優子さんの3名は、大会にて2回目の口頭発表を行ったことから学生発表B賞が授与されました。1日目の一般講演終了後にはバーチャルオフィスツール

oVice によるオンライン交流会が行われ、ライブ映像で会話を楽しむ事ができ懇親会のような雰囲気を楽しむ事ができました。

愛媛県で大会をお引き受けすることとなって以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたとは言え、実行委員長として至らぬ点が多々ありました。助言等を頂いた学会役員の方々、昨年に引き続きオンライン形式で、しかも新規システムの準備から運営を快く引き受けて頂いた秋田県立大学の原光二郎氏、川上寛子氏、小峰正史氏に大変感謝しております。最後になりましたが、学会員のみならず、大会への参加ご協力まことにありがとうございました。

* * *

【付記】日本地衣学会第 21 回大会（オンライン）の概要を以下に示します（発表者ほかの敬称略）。

開催日：2022 年 12 月 10 日（土）、11 日（日）

参加者：27 名（正会員 19 名、学生会員 6 名、非会員 2 名）

12 月 10 日（土）

10:30 - 11:30 評議員会

11:30 - 12:00 総会

12:00 - 13:15 休憩

13:15 - 14:30 シンポジウム「地衣類の共生パートナー」

[S1] 升本 宙（京都大学地球環境学堂）：地衣共生藻について

[S2] 河野 美恵子（総合研究大学院大学）：共生バクテリアから明らかになったイオウゴケの適応戦略

14:30 - 15:00 休憩

15:00 - 16:00 一般講演 [座長：綿貴 攻（千葉県立中央博物館共同研究員）]

[O1] オニサネゴケの基質樹種について

○佐藤 大樹¹・原田 浩²・阿部 真³（¹森林総合研究所，²千葉県中央博，³森林総研多摩森林科学園）

[O2] 屋久島亜熱帯林の二次遷移系列における樹幹に着生する地衣類群集の比較

○上田 菜央（京都大学大学院農学研究科森林科学専攻熱帯林環境学研究室）

[O3] 日本産海岸生広義ダイダイゴケ属 *Caloplaca* s. lat. —*Mikhtomia multicolor*—

○坂田 歩美¹・原 光二郎²・原田 浩¹（¹千葉県立中央博物館，²秋田県立大学）

[O4] 日本産地衣類の総合的なデータベースの整備とウェブ公開（2022）

○原田 浩¹・原 光二郎²・木下 薫³・坂田 歩美¹（¹千葉県中央博，²秋田県立大，³明治薬大）

16:00 - 18:00 オンライン交流会

12 月 11 日（日）

10:00 - 11:00 一般講演 [座長：小杉 真貴子（基礎生物学研究所）]

[O5] 日本産 *Lecanora yasudae* 様菌類の遺伝学的多様性について

○橋本 陽¹・杉本 廉²・東 若菜²・大熊 盛也¹（¹理化学研究所バイオリソースセンター，²神戸大学農学部森林資源学研究室）

[O6] 日本産アリノタイマツ地衣菌の rRNA コード領域における系統分類解析—九州・沖縄産—

○森田 歩¹・山本 好和²・中嶋 裕之³（¹久留米工業高等専門学校専攻科，²秋田県立大学名誉教授，³久留米工業高等専門学校生物応用化学科）

[O7] 日本産地衣類の LC/MS による化学成分の分析と分類への応用—ウチキウメノキゴケ属 *Myelochroa* と広義スミイボゴケ属 *Buellia* s. lat. を中心として—

○清水 玲亜¹・木下 薫¹・藤原 恒司¹・坂田 歩美²・原田 浩² (¹明治薬大, ²千葉県中央博物館)

[O8] 日本産海岸生地衣類の LC/MS による化学成分の分析と分類への応用(4)

○木下 薫¹・谷川 寛典¹・河崎 星¹・坂田 歩美²・原田 浩¹ (¹明治薬大, ²千葉県中央博物館)

11:00-11:15 休憩

11:15 - 12:00 一般講演 [座長：石原 峻 (神奈川県立生命の星・地球博物館 外来研究員)]

[O9] ウメノキゴケから単離された担子菌酵母といくつかの病原性真菌はウメノキゴケ抽出物に生育阻害を受ける

○平野 敦春 (東京理科大学大学院先進工学研究科生命システム工学専攻)

[O10] 地衣内在微生物が *Cladonia ramulosa* 培養地衣菌の二次代謝に与える影響

○野手 友貴・松淵 優子・川上 寛子・小峰 正史・原 光二郎 (秋田県立大学大学院生物資源科学研究科)

[O11] *Pertusaria glauca* 培養地衣菌由来抗酸化物質の探索と共培養による物質生産

○松淵 優子・野手 友貴・原 光二郎・小峰 正史・川上 寛子 (秋田県立大学大学院生物資源科学研究科)

12:00 - 12:10 閉会式

日本地衣学会第 21 回大会に参加して

My Impression for the 21th Annual Meeting of JSL, Dec. 2022 / by MORITA Ayumu

>>>>>>> 森田 歩：久留米工業高等専門学校専攻科
物質工学専攻 1 年

私は今回初めて地衣学会大会に参加させていただきました。久留米高専専攻科 1 年の森田歩と申します。本科 5 年生の卒業研究発表会等学内での研究発表の機会はありませんでしたが、このような学会大会での発表は初めての経験でした。新型コロナウイルスの感染流行が始まってから 3 年ほどが経ち、本年の大会も昨年に引き続きオンライン開催となったことは少し残念でしたが、学会の大会に参加すること自体初めてだったため少し楽しみでもあり緊張もしていました。

私は高専の 5 年生の時に中嶋先生の研究室に配属となりました。それまでは地衣類というものについては名前を聞いたことがある程度で、どのようなものなのかは知りませんでした。本大会にて発表させていただいたアリノタイマツをはじめとして地衣類について知

るうちに、その面白い生態に興味を持つようになりました。とはいえ地衣類についてはまだまだ知らないことばかりです。

今回本大会に参加し、たくさんの方の発表を聴かせていただきました。皆様の研究テーマをはじめとしてその方法や考察などこれから研究を続ける上で非常に参考になることばかりであり良い勉強となりました。皆様方の細かな違いに気づく注意力や発表資料の内容や発表方法などもとても勉強になりました。また、私自身アリノタイマツ以外の地衣についてはあまり知らず、本大会にて様々な地衣類について見聞きし、知ることができました。地衣類およびその共生藻の多種多様な生態については驚くことばかりです。私たちがあまり目を向けていないだけで地衣類は身近な場所にも

生育していて、そんな地衣類を注意深く観察してみた
いと思いました。

私の発表に関しましては、始めの方で音声関係のト
ラブルでご迷惑をおかけしましたが、緊張しながらも
落ち着いてお話しすることができました。現地ではな
くオンラインでの発表となり、皆様方と直接顔を合わ

せて交流することはできませんでしたが、非常に良い
経験になったと思います。この経験を糧に今後も研究
活動を頑張っていこうと思います。最後にこの場をお
借りして、発表にて質問していただいた先生方、発表
者の皆様方、そして参加者の皆様に感謝申し上げます。

日本地衣学会第 21 回大会に参加して

My Impression for the 21st Annual Meeting of JSL, Des. 2022 / by NODE Tomoki

>>>>>>> 野手 友貴：秋田県立大学大学院 生物資源科学研究科
生物資源科学専攻 博士前期課程 2 年

私は前回大会にて初めて発表させていただき、今大
会は 2 回目の発表でした。今大会は夏季に愛媛県総合
科学博物館での対面開催が予定されていましたが、開
催日が近づくに伴って、新型コロナウイルス感染症の
感染拡大がみられたため、今大会もオンライン形式で
の開催となりました。前回大会では、大会に参加され
た皆様と会話という形で交流することが叶いませんで
したが、今大会ではオンライン形式ではあるものの、
参加者の皆様とお話ししながら議論することができ、大
変勉強させていただきました。

私は学部 3 年の夏に現在の研究室に配属され、地衣
類と出会いました。在籍していた学科の特性上、ほと
んどの研究室が植物を研究対象にしている中、『菌類
と藻類が共生する』という独特な特徴に心が惹かれ、
地衣類の研究を始めました。私は現在、地衣成分が産
生されない培養地衣菌に、学部での研究で見出した地
衣内在微生物由来の抽出物を添加することで、培養地
衣菌の地衣成分産生誘導と、地衣成分の生合成に関与
する遺伝子クラスターのメカニズム解明を目指して研
究に取り組んでいます。この研究を始めたきっかけは、

「単独で培養された地衣菌がなぜ地衣成分を産生しな
いのか」、「地衣内在微生物が、地衣菌の二次代謝に
何らかの形で関与しているのではないか」という素朴
な疑問からでした。この素朴な疑問から生まれた研究
内容が、地衣学会大会の場で発表させていただくこ
になるとは想像していませんでした。今大会を通じて、
地衣類の様々な視点からの研究内容に触れることが
でき、地衣類に関する知見を広げるだけでなく、自分
の研究手法や発表方法について改善点を多く見つける
ことができ、私にとって良い刺激をいただく大会となり
ました。

最後にこの場をお借りして、川又大会実行委員長を
はじめとする大会の開催・運営に携わってくださった
皆様、シンポジウムでお話してくださった升本様と河
野様、本大会を通してお世話になりました先生方、そ
して参加者の皆様に深く感謝申し上げます。次回大会
について対面での開催が実現すること、そして地衣類
の研究がさらに発展していくことを心から願っていま
す。

気をつけよう！春先の岩場にて

Caution! Rocky Areas in Early Spring / by TANAKA Keita

>>>>>>> 田中 慶太：長崎市長崎中学校

私は、長崎県内の地衣フロアの解明を目的として、県内各地で観察を続けています。家で時間があるときに Google マップで名も知れぬ山中の露岩になっているところを探し、訪れる計画をたて、地衣類を探していたりしています。ロッククライミングの技術や道具は持ち合わせていないので、3点支持で無理はしない範囲で、とはもちろん心がけています。

ある3月下旬のうららかな春日和の時です。いつものように露岩を登れる範囲でよじ登っておりました。両足とリュックを置く程度の平らな場所がちょっとあったので、リュックを置き、背を岩の方に向け、立った状態でひと休憩していた時のことです。私の右手から50cm くらいの岩のくぼみに太いひも状で茶色とこげ茶色のまだら模様がふと目に入ったのです！そう、

それは毒蛇で知られるマムシでした！しかも、尻尾を小刻みに振動させることによって生じるというブルブルという威嚇音が聞こえたのです！その時の私の心中たるや、察していただけますでしょうか？できるだけマムシに気づかれないように(気づかれていますのですが・・・)、足を滑らせないように、できるだけ早く静かにと、命からがら岩場を降りてきました。2度見は出来ませんでした。岩場ではすぐにマムシとの距離を取ることもできないため、大変危険です。もっと夏場ならばそれなりに気をつけているのですが、まさか3月下旬に出会うとは思っておらず、警戒していませんでした。春先の岩場であっても注意は必要なのだと思います。



図1. マムシに遭遇する数分前に撮った写真。

◆原稿募集

本誌は、会員からの原稿を随時募集しています。地衣類にまつわるエピソード、思い出、あるいは地衣類に関する写真とタイトル、簡単な説明文だけでも受け付けます。電子メールにて次のアドレス宛に投稿御願います：
bandomakoto@aa6.mopera.ne.jp（坂東 誠）

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会。

Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619. E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan. Tel: 81-3-3475-5618. Fax: 81-3-3475-5619. E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA. Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744.

● *Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 168, pp. 655-660: eds. Bando M., Kawasaki E., Tanaka K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 27 Feb. 2023.

日本地衣学会ニュースレター168号

発行日：2023年2月27日

編集：坂東誠・河崎衣美・田中慶太

発行者・発行所：日本地衣学会

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2

千葉県立中央博物館内

©2023日本地衣学会 (© 2023 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。